国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和６年１月１９日
旭川開発建設部

受賞団体決定！「わが村は美しく－北海道」運動

～第１１回コンクールの優秀賞１２団体、奨励賞１８団体が決定～

北海道開発局は、「わが村は美しくー北海道」運動第１１回コンクールを開催し、選考の結果、**全道６３団体（５６市町村）の応募の中から、**農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動として、**優秀賞１２団体、奨励賞１８団体を表彰することを決定**しました。

旭川開発建設部管内からは、優秀賞１団体、奨励賞２団体が受賞しました。

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村が、より「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見いだし、これを広く発信し、波及させていくことによって農山漁村の振興に寄与することを目指し、平成１３年から、２年に１度開催しています。

今回は、全道１０のブロックごとの審査により、各ブロックから選定された団体（優秀賞１２団体、奨励賞１８団体）を表彰します。

なお、優秀賞の中から、来年度（令和６年度）の大賞審査により、第１１回コンクールの大賞を決定します。

１　「わが村は美しくー北海道」運動の概要について　【別紙１】
２　第１１回コンクールの概要について　【別紙２】
３　受賞団体の活動概要について　【別紙３】

旭川ブロックの表彰式については、随時、各団体を訪問して行う予定です。

【「わが村は美しくー北海道」運動とは】

北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観･地域特産物･人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていこう、との想いから生まれた運動です。「地域に住む方々が主体となった地域づくり活動の普及により、北海道の農山漁村全体が豊かになり、活性化をもたらす」ことを基本の考え方とし、地域で活動する団体などを支援しています。

「わが村は美しくー北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

【問合せ先】　国土交通省　北海道開発局　旭川開発建設部
土地改良情報対策官　工藤　幸大（0166-32-3449）
土地改良情報対策官付　事業専門官　泉　公生（0166-32-3479）
旭川開発建設部ホームページ　https://www.hkd.mlit.go.jp/as/
旭川開発建設部公式Ｘ（旧Twitter）アカウント　@mlit_hkd_as

【別紙1】

「わが村は美しく ー北海道」運動 とは？

Point

●北海道の農林水産業をより豊かにすることを目指し、平成１３年にスタート
●道内各地で地域資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動に対する支援

【景観】
地域の特色を活かし、生活と生産に根ざした景観形成活動

「景観」の形成

魅力ある活力に満ちた 北 海 道

【人の交流】
地域の魅力を高めるコミュニティづくりに結びつく都市及び地域内外の人たちとの交流活動

活発な「人の交流」づくり

「地域特産物」のブランド化

【地域特産物】
地域で生産される農林水産物及びそれらを主として利用した加工品の生産販売活動

- ● 参加しようー中心となるのは、地域に住む人々　「地域の資源」を見つけよう
- ● 広げようー活動の輪を大きく、自由に　地域の個性を競い合い高め合い
- ● 伝えようー北海道の「いいもの」を、もっと外へ　地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

取組

●コンクールの開催　←　「地域資源」を見つけ、「いいもの」を多くの人に伝えます
●地域の魅力を高めようとする地域住民の活動をさらに広く伝えて、その活動を支援し波及させます

第１１回「わが村」運動 コンクール

地域住民の活動を支援する一環として、地域で活動する団体を対象にコンクールを開催しています

活動団体
↓
現地調査
優秀賞・奨励賞の選考
↓
表彰式
↓
大賞の選考
↓
大賞表彰式

R5年度

R6年度

第10回コンクール
大賞受賞団体

北のなのはな会【安平町】

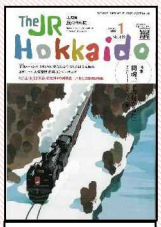
ほんべつ豆まかナイト
実行委員会【本別町】

多くの人に伝えるための取組

●ＨＰへ掲載　https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html
→活動団体の最新情報を広く発信

●メールマガジンの配信
→活動団体への情報提供
→活動団体の最新情報を発信

●ＪＲ北海道の車内誌
→「The JR Hokkaido」への掲載
（ＪＲ北海道の協力）



JR車内誌

●地域イベントで活動ＰＲ
→地域イベントに参加し団体活動を紹介

札幌大通でのパネル展

●パネル展でＰＲ
（北洋銀行との連携）

●Facebook(ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)の取組
→活動団体の最新情報を広く発信

Facebook はこちらの
ＱＲコードからご覧頂けます。

【別紙2】

令和６年１月１９日
北海道開発局

「わが村は美しくー北海道」運動第１１回コンクールの受賞団体を決定
～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を応援しています～

「わが村は美しくー北海道」運動では、平成１３年から２年に１度コンクールを開催しており、今回で１１回目となります。
第１１回コンクールには全道から６３件（団体）の応募があり、審査の結果、優れた活動として優秀賞１２団体、奨励賞１８団体を表彰することとしました。
表彰式は、本日以降、随時、受賞団体の応募先である各開発建設部において行う予定ですので、詳細については、該当する開発建設部土地改良情報対策官にお問い合せください。

〇第１１回コンクールの概要について

１．コンクールの応募状況等について

(1) 応募件数
全道５６市町村から６３件（団体）の応募

(2) 審査経過
▸令和５年１月～令和５年６月：募集
▸令和５年７月～１０月：全道１０ブロック※での現地調査
（ブロック審査委員会による全応募団体の調査）
▸令和５年７月～１１月：ブロック審査委員会での審査
（現地調査の結果から受賞団体を選考）
※各開発建設部の所管を１ブロックとしている。

２．受賞団体について

(1) 優秀賞※（北海道開発局長表彰）［１２団体 ］
※優秀賞：ブロック審査により、活動が優秀と認められた団体を選定。
- 特定非営利活動法人　山のない北村の輝き（岩見沢市）
- 元気村・夢の農村塾（深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町）
- にじいろファーム（七飯町）
- 美国・美しい海づくり協議会/余別・海 HUG くみたい（積丹町）
- 名寄市立大学援農ボランティアの会（名寄市）
- ニサナイ大地の会（むかわ町）
- 北海道中標津農業高等学校　マネージメント研究班（中標津町）
- 北海道帯広農業高等学校　食品科学科　地域資源活用分会（帯広市）
- ピロロツーリズム推進協議会（広尾町）
- 合同会社　びほろ笑顔プロジェクト（美幌町）
- フレッシュ市場「花菜夢」（遠別町）
- 社会福祉法人稚内市社会福祉事業団　就労継続支援Ｂ型事業所　稚内市北光園（稚内市）

（受賞団体名は順不同です）

【別紙2】

(2) 奨励賞※（各開発建設部長表彰）　［１８団体 ］
※奨励賞：ブロック審査により、将来性や継続性から奨励すると認められた団体を選定。

◇札幌ブロック［３団体］
・沼田町産直グループ　愛菜ママ（沼田町）
・疏水ほっかい愛護連絡協議会（岩見沢市）
・一般社団法人　恵庭青年会議所（えにわハッピーハロウィン実行委員会）（恵庭市）

◇函館ブロック［２団体］
・ハコダテフィッシャーマンズ（函館市）
・一般社団法人　福島町まちづくり工房（福島町）

◇小樽ブロック［１団体］
・しりべし女子会（後志管内）

◇旭川ブロック［２団体］
・辰巳農園（上川町）
・JA ふらの女性大学（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村）

◇室蘭ブロック［２団体］
・壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合（壮瞥町）
・合同会社　自然農業社（壮瞥町）

◇釧路ブロック［１団体］
・みんなの景観なかしべつプロジェクト（中標津町）

◇帯広ブロック［３団体］
・株式会社　地恵贈（池田町）
・北海道本別高等学校　豆乳クレンジングジェル班（本別町）
・北海道士幌高等学校　乳加工専攻班（士幌町）

◇網走ブロック［２団体］
・株式会社　滝上町和ハッカ・ラボ（滝上町）
・つべつ豆のわ！！プロジェクト（津別町）

◇留萌ブロック［１団体］
・乳製品加工研究会「美留来のゆめ」（天塩町、幌延町、遠別町）

◇稚内ブロック［１団体］
・北海道豊富高等学校ボランティア部（豊富町）

（受賞団体名は順不同です）

別紙3

参加認定証交付式の様子

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

名寄市立大学援農ボランティアの会

【名寄市】

名寄ならではの環境で農作業＋αの経験・体験を

【はじまりは？】

名寄市の農業は、もち米、アスパラ、スイートコーンなど、全国でも有数の生産量を誇る作物が多くありますが、近年は農業従事者の高齢化やパート作業員の不足が進み、特産物の生産を維持することが難しくなってきています。また、名寄市には保健医療福祉の専門職を養成する名寄市立大学がありますが、農業との接点は少なく、学生に向けて農業アルバイトを募集しても応募が無いような関係性でした。

そこで単なる農業アルバイトではなく、学生と農業のつながりを作り出せるような取組が必要だと感じ、大学や農協、市の担当者が集まって話し合いを重ね、その結果、食農教育という学びも含めた援農ボランティア活動とすれば、お互いにとって有益な関係性を作ることができるのではないかと考え、協力して組織(環境)作りを行うことになりました。

【おもな活動】

学生が援農有償ボランティアとして農作業に従事するための環境作りが主な活動です。

学生が普段行っているアルバイトと農業アルバイトはかなり環境が異なるため、その差を埋めるための工夫を行っています。例えば、作業に必要な道具（長靴や雨具など）の貸出や参加条件の統一（有償水準や休憩、送迎など）です。

そのほか、学生の募集は名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター、農家の募集はJA道北なよろ、貸出品の資金拠出は名寄市とJA道北なよろが担当するなど、各団体が分担して活動を行っています。

収穫作業の様子

【ここが自慢】

農業アルバイトは主にお金を通じた関係となり、農家にとっては不慣れな学生を高めの賃金で雇うことになり、学生にとってはそこそこの賃金で大変な外作業を行うことになります。逆に無償ボランティアは心の報酬だけとなり、農家は繁忙期に多くのコミュニケーションを取る必要があり、受入農家も参加する学生も限られます。

そこで本活動では、「有償」援農ボランティアとすることで、双方のバランスを取っています。

農家は賃金に加えて食農教育の機会（経験や交流）を提供することで、学生は賃金以上の報酬を得ることができるため、参加者も安定して確保できています。

現在では毎年20戸以上の農家に延べ人数で70名以上の学生が参加しているほか、事業終了後に農業アルバイトとして直接雇用されている学生も多数いることから、学生と農家の相互理解が進展しています。

卒業後は名寄市外へ就職する学生が多いため、将来、名寄の農業・北海道の農業・日本の農業の良き理解者・支援者となってくれることを期待しています。

連絡先

代表者名：今野　聖士さん／設立：2017年／会員：60名

住　　所：北海道名寄市西四条北8丁目1
名寄市立大学　教養教育部　今野研究室

電話番号：01654-2-4194

ＦＡＸ：01654-3-3354

Ｅ－ｍａｉｌ：m-konno@nayoro.ac.jp

ＵＲＬ：

別紙3

製造販売している大豆コーヒー

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

辰巳農園

【上川町】

安全で責任ある農産物生産と持続可能な農業を実践する

【はじまりは？】

地域の特産物として、もち米、そば、有機質肥料を使ったスイートコーン、大豆のコーヒー、納豆、豆腐、ビーツのヨーグルトムースなど多くの農産物や加工品を作ってきました。

また、令和５年からは、自家で生産したもち米を使った大福やおこわなどを提供する店舗「もちごやマム」（マムとは菊と母の意）を営業しています。

【おもな活動】

秋に実った黄金色の稲穂はそれだけでとてもきれいな景観ですが、それに加え、昨年は道路沿いにひまわりを植えて景観形成をしました。

また、自家製の大豆を使用した大豆コーヒーを「from K」という団体名で町内外のイベントに出店し、そこでのつながりを地域に持ち帰っています。団体名の「K」は、「上川」「菊水」を意味します。

「もちごやマム」は青い外壁が特徴で、特に営農期間外は殺風景になりがちな農村風景に彩りを添えています。

おかげさまで地域内外たくさんの方にご利用いただいているほか、地域の子どもたちへ餅つきなどの体験の場を提供するなど、新たな交流を生み出すことができていると感じています。

【ここが自慢】

我が家で採れた大豆のくずやもち米の米ぬか、もみがらなどを混ぜて発酵させて作る、自家製「有機質ボカシ肥料」を使用したコーンは、「頑固オヤジのパンチコーン」として、ふるさと納税の返礼品になっています。

この名前は開発当時、パンチパーマだったことに由来しています。

豊かに実ったとうきびは、日中の寒暖差が激しい上川町ならではの気候も相まって、非常に甘みの強いコーンに仕上がります。

頑固オヤジのパンチコーン

連絡先

代表者名：辰巳　眞さん／設立：1983年／会員：4名

住　　所：上川郡上川町字菊水５０５番地１１

電話番号：01658-2-3713

ＦＡＸ：01658-2-3713

Ｅ－ｍａｉｌ：hir0178@yahoo.co.jp

ＵＲＬ：

別紙3

令和５年度入学式

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

JAふらの女性大学

【富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村】

JAふらの及び地域農業のサポーターを増やします

【はじまりは？】

女性大学設立当時のＪＡは販売事業の取組は強固であるが、教育文化事業への取組が弱い状況でした。このため、各種の活動を通じ教育文化事業の強化を図ること、加えてその活動に農業女性だけではなく、地域住民女性も対象とすることにより、農協に関わりのない方に対するアプローチを強化し、ＪＡふらのおよび地域農業のサポーターを増加させることを目的として、平成22年に北海道初の『女性大学』を開校しました。

【おもな活動】

現在は第12期生と第13期生が在学（２学年制、30人程度/学年）しており、農家以外の学生が約半数を占めています。入学式から卒業式までの２年間で、ＪＡ所有施設の見学、先進農業地域への視察および地元農産物を使った料理講座などの食育関係の活動から、田んぼアート鑑賞や陶芸教室の文化関係の活動まで、バラエティーに富んだカリキュラムを女性部役員が企画・運営段階から携わり、2年間で10回程度実施しています。

西瓜集出荷施設視察

田んぼアート視察

【ここが自慢】

ＪＡふらのが設立した組織で、平成２５年度から一般の方へも周知を行い、積極的に学生を受け入れています。

ＪＡふらのでは、女性部役員が企画・運営の段階から携わり、「女性が企画する大学」としての機能を発揮しています。

女性大学は、仲間を増やす場として、組合員ではない入学者には、ＪＡへの出資をお願いし、准組合員になってもらっており、これにより、ＪＡ組合員として、ＪＡの事業を楽しむ、という輪が広がっています。

また、２年間の活動を終えた学生が、卒業後に再入学を希望するなど、活発で良好な地域交流がなされており、ＪＡ組合員（生産者）と非ＪＡ組合員（消費者）を繋ぐ非常に重要な場となっています。

連絡先

代表者名：学長　植﨑　博行さん
／設立：2010年／会員：63名

住　　所：北海道富良野市朝日町３番１号
ＪＡふらの　営農部　営農課内

電話番号：0167-23-3534

ＦＡＸ：0167-23-6119

Ｅ－ｍａｉｌ：y-takahashi@ja-furano.or.jp

ＵＲＬ：https://www.ja-furano.or.jp/